

# 山王神社の守り神 鮫島四郎宗家

昭和六十三年八月五日号

旭化成の西側に「山王さん」と呼ばれる神社があります。「山王さん」の守護神は、昔、源頼朝に仕えた鮫島氏と言われます。今回は、この鮫島氏に伝わるお話です。

## いち早く駆けつけた宗家

治承四年八月十七日、源頼朝は伊豆の韮山で旗上げをし、まず最初に目代の山不判官兼隆を攻め滅ぼしました。このとき、頼朝の家来は、たった八十五人。その中に富士郡鮫島村出身の鮫島四郎宗家という武士がいました。頼朝はいち早く駆けつけた鮫島四郎宗家に厚い信頼を寄せました。

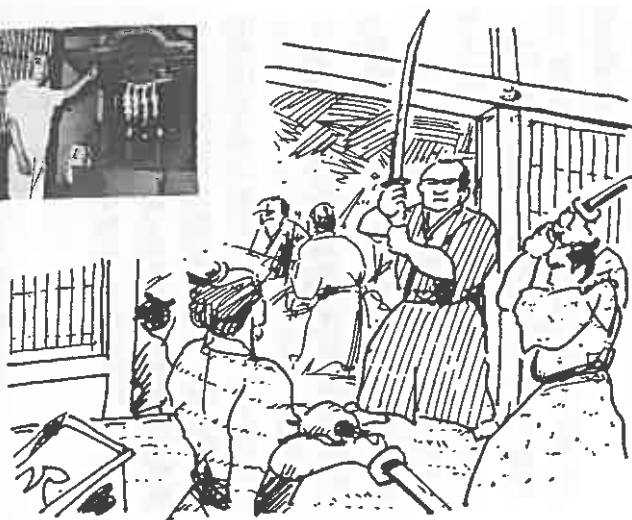
その後、鮫島四郎は十月二十日の富士川の合戦にも参加しました。道案内として活躍し、だんだん重く用いられるようになりました。

## 誤って味方を切る

それから数年後、頼朝は甲斐源氏武田信義の長男の一条次郎忠頼を謀反の心を持つているという理由で殺そうとしました。そして酒盛りを開いて忠頼を呼び、大勢で忠頼を殺してしまいました。外で待っていた忠頼の家来は、主人が殺されたことを知り、激しい切り合いになりました。

鮫島四郎はこの騒ぎの中で間違つて味方を

山王神社



切ってしまいました。

頼朝は怒り、四郎の指を一本切り落としてしまいました。その上鹿児島へ領地替えをしてみました。その後、鯨島氏は島津氏に仕え、八千石の武士として長く子孫が栄えました。

※目代々鎌倉時代の地方官の代官

## 子孫が種子島に

志村安信さん(鯨島)

山王神社の氏子総代で鯨島にお住まいの志村安信さんは「昭和五十七年ごろ鹿児島県の種子島に住んでいる鯨島さんという人が、お参りに来ました。鯨島さんは自分のルーツをたどったところ鯨島四郎にたどりついたようで、この話は真実性があるよ」と語ってくれました。